



受賞盾と賞金を手にした受賞各社

## 準グランプリ

### 新日本改修建設

新日本改修建設 取締役  
鈴木 寿一氏



新日本改修建設はコンクリート建造物の改修工事を専門に手がけている。本業のかたわらヨウ素樹脂の優れた殺菌効果に着目し、珪藻土と混合することで室内のカビや細菌を効果的に除菌する建材を考案。壁材「上総の壁」、天井材「上総の健康ボード」として製品化した。

ヨウ素樹脂は、ヨードを微量の樹脂と結合して固体化したもの。ヨードは珪藻土の中でも特に

吸放湿機能が非常に高い北海道・稚内産の珪質頁岩(けつがん)を使用した。千葉大学真菌医学研究センターが行った実験では80%の除菌を検証し、高湿度でもカビが発生しなかったという。中でも珪藻土は吸湿性と保湿度を持ち、壁材として近年脚光を浴びている。同社は珪藻土の中でも特に

今後は戸建住宅をはじめ病院、介護施設、精密機械の工場など、さまざまな建物での活用を目指す。千葉大や北里研究所の医療環境科学センターなどの協力により除菌性能の検証も継続する。(千葉県君津市中野2の3の2、0439・55・6666)

居住空間に浮遊する真菌・細菌を80%以上除菌する「上総の壁」「上総の健康ボード」の開発と事業化

## 第8回ベンチャー・カップCHIBA

千葉市産業振興財団(千葉市中央区、齋藤義夫理事長、043・201・9501)は新規性、獨創性、実現性の観点からビジネスプランを表彰する「第8回ベンチャー・カップCHIBA」を開催した。応募のあった193社の中から事前審査を通過した5社が金融機関や企業関係者45社(人)を前に事業プランを発表。自社の製品技術やサービスをプレゼンテーションした。グランプリに輝いたのは、高度先進医療検査画像の遠隔読影診断支援事業を行うイー・メディカル千葉(千葉市中央区)。副賞として100万円が贈呈された。今回から設けた準グランプリ(副賞30万円)は、居住空間に浮遊する真菌・細菌を80%以上除菌する「上総の壁」「上総の健康ボード」の開発と事業化に取り組む新日本改修建設(千葉県君津市)が受賞。異業種コラボ店舗運営による不動産活用ビジネスを行うキーベックス(千葉市若葉区)、最重要漢方植物「甘草」の千葉市での国産化事業を目指すエーベルス(千葉市中央区)、デンゲウイルスの感染とウイルス血清型判定が同時にできる安価で簡便、迅速な検査キットの開発と販売を行うバイオメディカル研究所(横浜市泉区)の3社に優秀賞と副賞10万円を贈った。

## 受賞企業決定

### グランプリ

#### イー・メディカル千葉

イー・メディカル千葉 取締役

#### 渋川 秀三氏



### 高度先進医療検査画像の遠隔読影診断支援事業

イー・メディカル千葉は病院と放射線診断専門医をIT技術で駆使して結びつけ、医療検査画像の遠隔診断を実現するネットワーク構築を目指して2月に事業を開始。現在は医療施設から専用回線を通じて送られた画像データを専門医が診断し、診断結果を添付して返送するサービスを行っている。専門医に関しては千葉大学のほか、提携先企業を通じて名古屋大学や愛知医科大学が協力をし、顧客は8月末現在で14医療施設ある。

同社のサービスを導入することで、医療施設は画像診断を外部の専門医に任せ、現場の医師を診察や治療に専念させることが可能になる。慢性的な医師不足の解消の一助になるほか、コンピュータ断層撮影装置(CT)や磁気共鳴断層撮影装置(MRI)、陽電子放出断層撮影装置(PET)など先進的医療機器の有効活用にもつながる。

選隔画像診断支援は約10年前に市場化した比較若い業界ながら、08年度の厚生労働省が画像診断処理に関する保険診療報酬を大幅に引き上げたことで急速に市場が伸びる能力も高く、同社は今後の普及を期待している。(千葉市中央区富士見2の7の5 ハイネスビル10階インキュベート7号室、043・224・72508)

